

## 令和7年度 筑波大学附属病院見学

2年生医学コースの生徒32名が、9月29日(月)に筑波大学附属病院を訪問しました。

最初に総合診療科の橋本先生より筑波大学医学生が学ぶ講義と実習の模擬を行っていただきました。医学群を卒業するまでに身につけてほしい能力(卒業時コンピテンシー)と、それらが実際の医療の現場でどのように活かされるのかを、先生が経験された緩和ケアに関する事例を共有して、生徒たちはこの患者に何ができるかについて考えました。病気だけに注目するのではなく、患者の全人的苦痛や家族の苦しみに寄り添い、多職種のスタッフと協力して対応するための社会性とコミュニケーション能力が求められることを学びました。実習では聴診器を装着した血圧測定の練習をしました。脈拍や血流の音を聴きながら収縮期血圧と拡張期血圧を測定し、生徒たちは先生方に質問しながら積極的に取り組んでいました。

午後は、高度救命救急医療について、救急・集中治療科の井上先生から講義をいただいた後、ER室やICU室、ドクターヘリが着陸する屋上ヘリポート施設を見学しました。また消化器外科の明石先生からは、普段見ることのできない手術室の内部や今行われている手術の様子をモニターでご説明いただきました。生徒たちは現場の緊張感と懸命に従事する医師の姿勢を体感することができました。

筑波大学の医学教育の特長や附属病院について、多く学ぶことのできた充実した1日となり、生徒たちは医学部受験に向けてさらに意欲を高めていました。



